

平成30年度全国学力学習状況調査報告を受けて

国語

すべての項目で全国平均を上回っている。全体的なバランスを見ると、昨年と同様に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、聞くこと、選択式、短答式の結果が他の項目と比べるとやや低い傾向にあります。この結果をみると歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問にやや苦手意識が見られます。

数学

全体的に平均より高い結果となった。記述式の問題等の結果が昨年と同様に高い。このようなじっくりと考えて取り組む問題を得意とする生徒が多いですが、短答式や選択式の問題は全国平均は上回っています。しかし記述式に比べると低い傾向にあるようです。これにはよく考えずに問題をといてしまい単純なミスが多くなったと考えられます。昨年と比べると全体的に下回っているところが多いです。

学校質問紙調査の結果にみられる特徴と現状

学校質問紙の調査結果を見ても、昨年と同様に全ての領域において平均を上回る結果となりました。特に個に応じた指導においては、平均を大きく上回り、少人数指導や習熟度別指導などの指導法の他にも、各教科においてきめ細かに指導を行っている現状を維持したいと考えています。

生徒質問紙調査結果にみられる特徴と分析

生徒質問紙の調査では、数学への関心等が昨年とほぼ同じ結果でした。理科への関心等、地域社会への関心等が全国平均より下回っています。この結果から考えると各教科への関心等が高まればさらに教科の平均が向上すると考えられます。

改善目標

生徒質問紙の調査では、国語、数学への関心等が昨年とほぼ同じ程度で、全校平均よりも低い傾向でした。しかし、理科への関心等、地域社会への関心等が全国平均より下回っています。この結果から考えると各教科への関心等が高まればさらに教科の平均が向上すると考えられます。

改善方策

国語・数学科の授業を中心に、短答式の問題にも問題をよく読むことや考えを記述する習慣を今年度の授業や朝学習の中で行えるようにしていきます。

検証方法

この結果を今年度の結果のみと考えずに、全校の課題として職員一同が考え、次回の全国学力学習状況調査で検証していく必要があります。